

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平林, 幸弘 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009688

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

ひらばやし ゆきひろ

平林 幸弘（北海道区水産研究所 業務支援課）

2011 年の北太平洋

漁獲数

第20回NPAFC年次会議における各国の報告によると、2011年1-12月の北太平洋の漁獲数は6億696万尾で、前年の4億2,304万尾に対し143%、2009年と並ぶ史上最高の水準でした（図1A）。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い4億5,870万尾で全体の76%を占め、前年比177%と大きく増加しました。次いでサケが8,516万尾（構成比14%、前年比94%）、ベニザケが5,553万尾（構成比9%、前年比85%）と続き、これら3魚種で全体の98%以上を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ600万尾（前年比95%）、150万尾（前年比108%）となりました（図1A）。地域別では、ロシアが3億6,649万尾と最も多く、以下、アラスカ州1億7,737万尾、日本

4,614万尾、カナダ973万尾、WOCI（ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州）719万尾、韓国3万尾と続いています（図1B）。

人工ふ化放流数

2011年1-12月に各国から人工ふ化放流された幼稚魚数は45億1,226万尾と集計されています。東日本大震災の影響により日本の放流数に本州太平洋分が含まれていないため、前年の52億4,351万尾より約7億尾少なくなっています（図1C）。

魚種別ではサケが24億6,754万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの13億8,372万尾と合わせると全体の8割以上を占めます（図1C）。地域別では日本が13億5,909万尾、アラスカ州15億3,838万尾、ロシア9億3,523万尾、カナダ3億3,666万尾、WOCI3億2,200万尾、韓国2,090万尾となっています（図1D）。

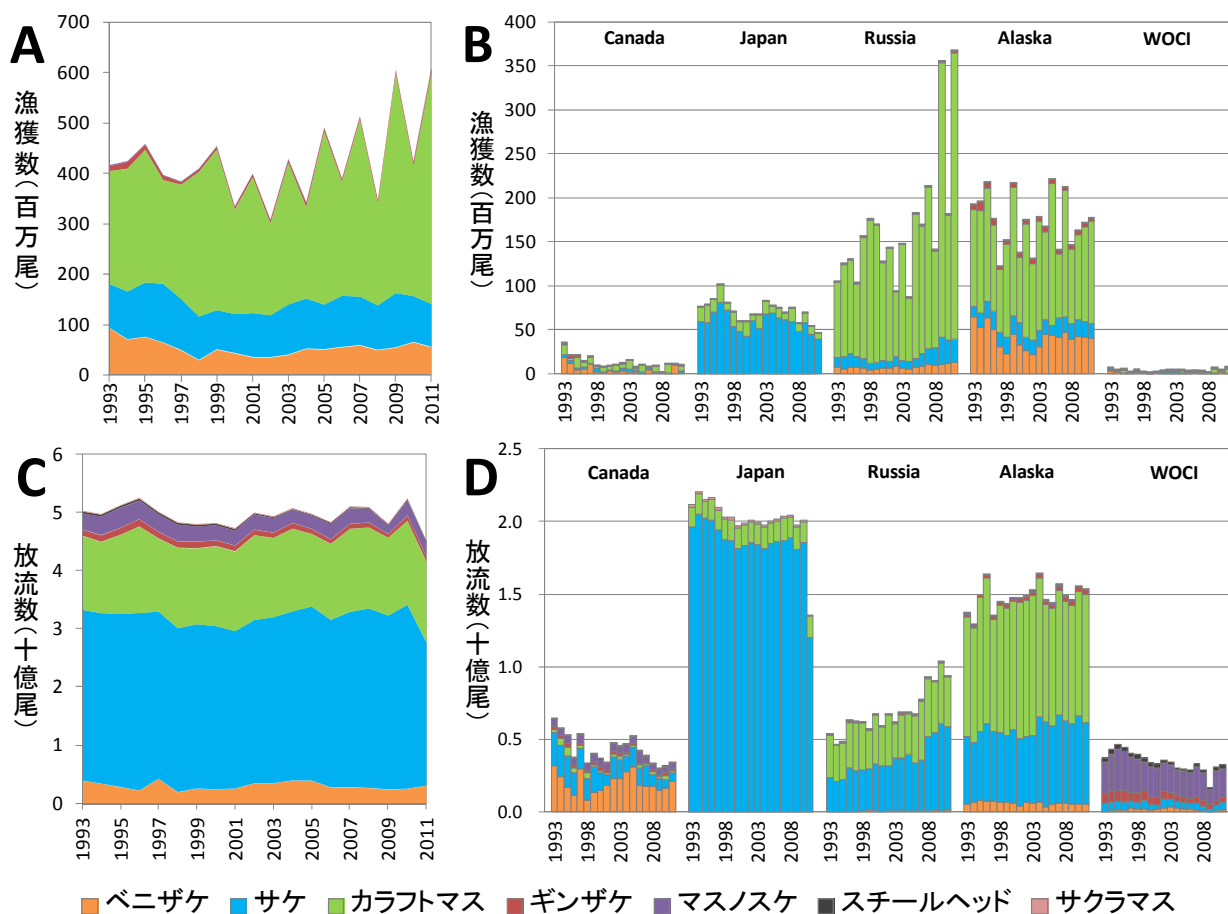


図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A)、地域別魚種別の漁獲数 (B)、魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)。1993-2009年は「NPAFC Statistical Yearbook」による確定値。2010年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値。1998年までのロシアにはEEZ（排他的経済水域）で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため、図中では省略している。

2012 年度の日本

サケ

2012 年度の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 12 月 31 日現在で 4,510 万尾、前年度同期比 104% となっています（図 2）。近年の来遊数をみると、2003-2007 年度には 7,000 万尾前後の高い水準にありましたが、その後減少し 2010 年度以降は 4,000 万尾台が続いています。地域別には北海道より本州、日本海側より太平洋側の減少が大きく、今年度の本州太平洋側では 2003-2007 年度同期の 4 割程となっています。

総採卵数は 12 月 31 日現在で 18 億 2,164 万粒、採卵計画数の 90% となっています。北海道では、太平洋側で計画数を下回ったものの、全体の充足率は 97% となりました。本州は前年同期を上回っていますが、計画を満たすことは困難とみられ、放流数も減少するものと予想されます。

カラフトマス

主産地の北海道における 2012 年度来遊数は 222 万尾で前年度比 40% に減少しました。カラフトマスは来遊資源が隔年で変動する特徴があり、2003 年度以降、奇数年は豊漁年、偶数年は不漁年にあたっていましたが、2010 年度からは 3 年連続で減少しています。その結果今年度は、1989（平成元）年度以降で最も少ない来遊数になりました。総採卵数は 1 億 2,033 万粒で計画数の 74% に留まり、放流数も減少するものと見込まれます（図 3）。

サクラマス

2012 年度の北海道における河川捕獲数は 8,226 尾で前年度比 47% と半減しました。2000 年度以降の捕獲数には大きな年変動が見られ、今年度はその間では比較的少ない尾数でした。採卵数は 252 万粒で計画数の 64% となりました。なお、2010～2012 年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

ベニザケ

2012 年度の北海道 3 河川（安平川・静内川・釧路川）における河川捕獲数は 697 尾で前年度比 55% となりました。

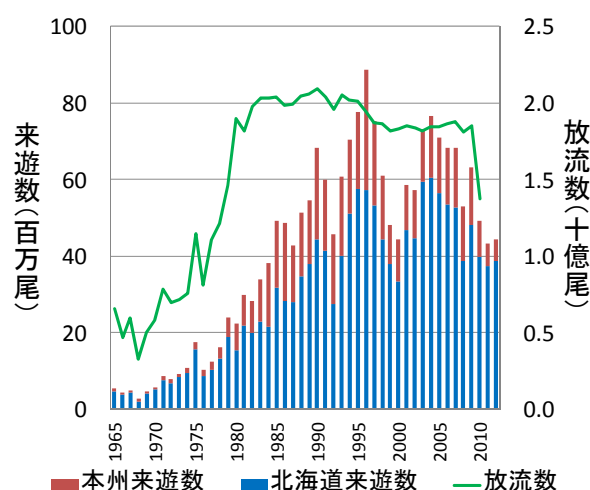


図2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2012 年度来遊数は 12 月 31 日現在。2010 年度放流数は岩手、宮城県を含まない。

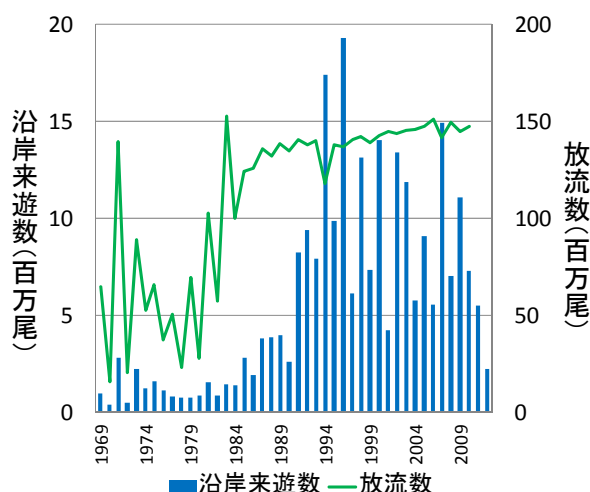


図3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

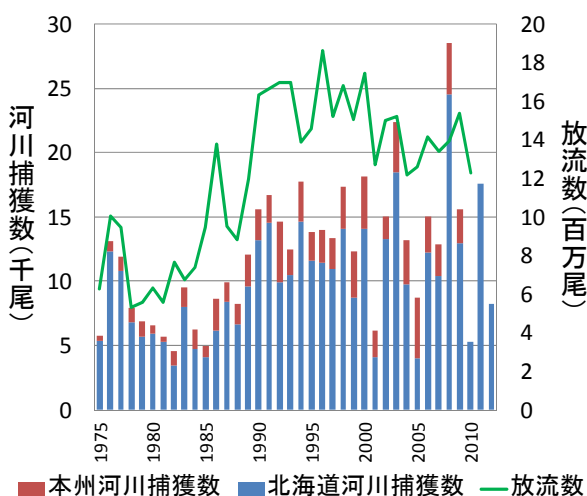


図4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。2010-2012 年度の本州河川捕獲数は確認中。